

ネクタイを対象とした色と柄の印象評価

1. はじめに

前回のゼミでは具体的なテーマが決定していなかったので、今回は卒業研究のテーマを決定し、その内容について説明する。

2. 研究目的

商品開発の際、顧客の感性は重要な要因となる。そこで、顧客のイメージや感性を分析し、デザインに反映させることで、より理想に近い製品デザインを提示することが可能となる。

今回の実験ではネクタイの色と柄を対象とする。

3. 研究概要

実験では、様々な色や柄のネクタイに対する印象のデータを取り、SD法を用いて被験者の印象やイメージを明確にしていく予定である。

さらに、因子分析法により各サンプルについて分析する。

4. SD法

SD法 (Semantic Differential method) とは、心理学的測定法の一つである。ある事柄に対して個人が抱く印象を相反する形容詞の対を用いて測定するもので、それぞれの形容詞対に尺度を持たせ、その尺度の度合いによって対象事項の意味構造を明らかにしようとするものである。

5. 因子分析法

因子分析とは、変数間の相関関係を分析することにより、多くの変数を少ない因子に集めていく多変量解析の一技法をいう。

因子分析法の手順を以下に示す。

・尺度化

観測変数の合計を尺度得点といい、事前の項目検討からはじまって因子分析を介して尺度得点を求める過程を尺度化という。尺度化の結果として変数の数が減少する。

・尺度の信頼性

尺度の信頼性を計る基準として α 係数がある。ただし因子間に誤差共分散がある場合に α 係数は不正確になる。信頼性の低い尺度では因子間の相関係数が低く見積もられることになり、これを「相関係数の希薄化」と呼ぶ。

6. おわりに

今回はSD法と因子分析法について簡単に学習した。今後は過去の論文などを読み、さらに知識を深める。

データについては、すでにあるデータに加えて年齢、性別など、様々な人物を被験者とし、さらにデータをとる予定である。